

平成30年度  
全国学力・学習状況調査  
結果の分析と考察

# 長沼町の児童生徒の 学力や生活習慣は？

【 長沼町教育委員会 】

平成31年2月発行

## ○全国学力・学習状況調査について（平成30年4月17日実施）

この調査は、

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てること
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること

という目的で、平成19年度から文部科学省が実施しており、教科に関する調査では、

・主として「知識」に関する問題 [国語 A、算数・数学 A]

・主として「活用」に関する問題 [国語 B、算数・数学 B]

加えて、平成30年度は、

・「知識」と「活用」を一体的に出題 [理科] (平成24・27年度以来の実施) を実施しました。

教育委員会では長沼町教育の充実に資するため、今年度も、町内の全小学校「6学年」及び中学校「3学年」を対象に本調査に参加しました。

今年度の調査における全体的な学力・学習状況については、全国・全道とほぼ同様の傾向にあります。学力面では、小学校では、すべての問題でおおむね達成されているものの、算数 B の一部にやや課題が見られ、中学校では、すべての問題で、おおむね達成、または達成されました。また、学習習慣や生活習慣に関する状況については、全道とほぼ同様な傾向にありますが、家庭での学習時間が短いことやテレビ視聴・ゲーム・スマートフォンなどメディアに触れる時間の多さなどの課題が見られます。

教育委員会としては、これまでの取組の成果と課題を客観的に判断し、今後の対策を明確にしていくことが重要であり、子供たちの学力向上のためには、保護者、町民の皆様と成果と課題などを共有し、学校・家庭・地域が一体となって取り組むことが不可欠であると考えています。

なお、調査結果については全国・全道との比較ではなく、過去の問題の傾向から、

「達成」 正答率：A 問題80%以上 B 問題60%以上

「おおむね達成」 正答率：A 問題60%以上80%未満 B 問題40%以上60%未満

「課題」 正答率：A 問題60%未満 B 問題40%未満

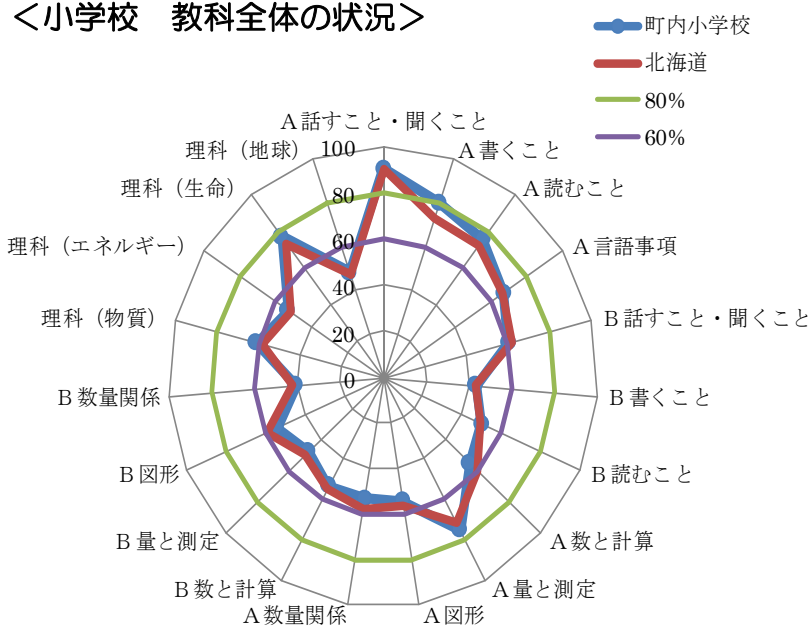
と表記しています。

\*理科は、A 問題の基準で表記

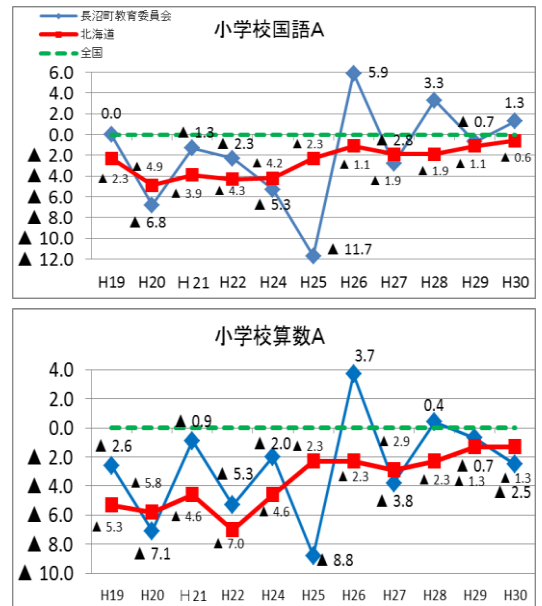
また、成果や課題の中から特に指導の改善が必要であるものは、その出題の趣旨を踏まえ児童生徒に身に付けさせなければならない力を分析し、授業改善を通して児童生徒一人一人に確かな学力が身に付くことを目指しているところです。

# 長沼町の児童生徒の学力の傾向

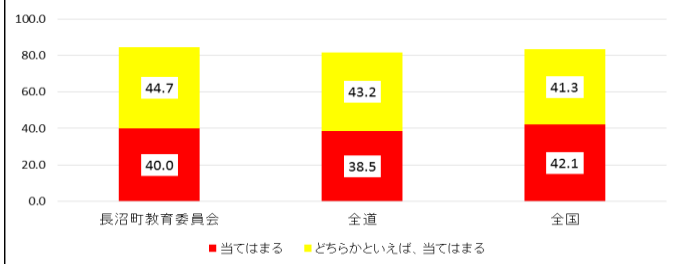
## ＜小学校 教科全体の状況＞



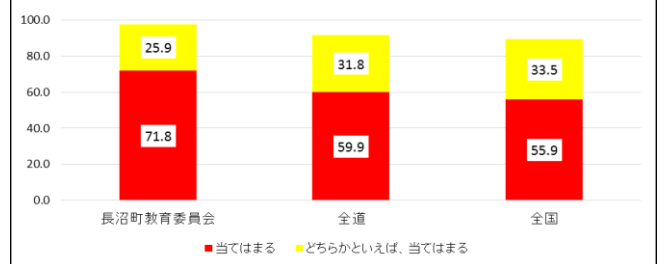
## ＜平均正答率の全国との差の推移＞



### 算数の授業の内容はよく分かりますか



### 理科の授業の内容はよく分かりますか



### 国語A（知識）～おおむね達成～

- 文中における主語と述語の関係などに注意して文を書いたり、文章を読んだりする指導が必要である。

### 国語B（活用）～おおむね達成～

- 質問の意図を捉え、自分の意見と比べながら考えをまとめられるように、司会者、提案者、参加者などの役割を与えた話し合い活動の場を多く経験させる指導が必要である。
- 目的や意図に応じて文章全体の構成を考えたり、内容の中心を明確にして詳しく書いたりする指導が必要である。

### 算数A（知識）～おおむね達成～

- 整数、小数、分数の四則計算など、基礎的・基本的な内容の定着を図る必要がある。
- 角の大きさを正しく測ることができるように、見当を付けること、測定すること、測定の結果を振り返って確かめることの各活動を関連付けて指導する必要がある。

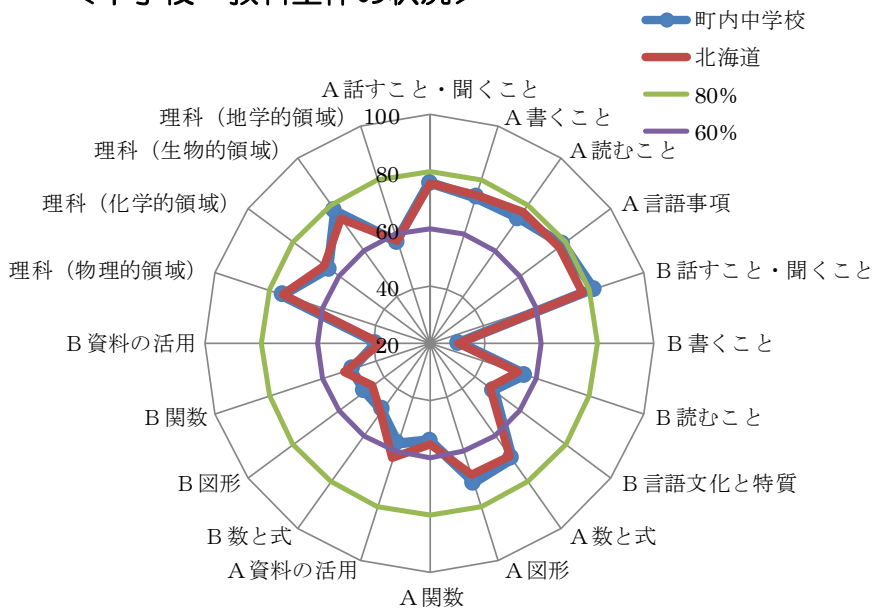
### 算数B（活用）～おおむね達成～

- 解き方の根拠などを説明する記述式の問題に課題がある。算数の用語や式を適切に用いて、説明ができるようにする指導が必要である。
- 「日常生活の事象」からの出題では、複数の情報を数直線や表などに整理し、数量の関係に着目して問題を解決する指導を継続する必要がある。

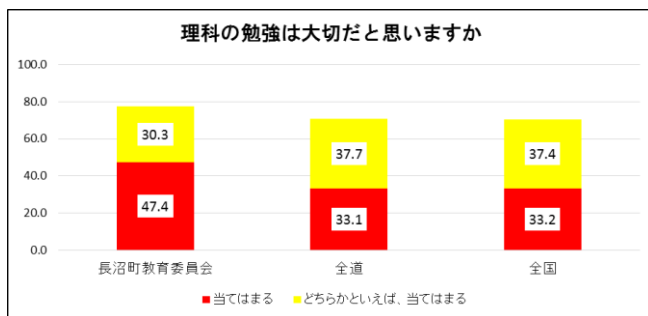
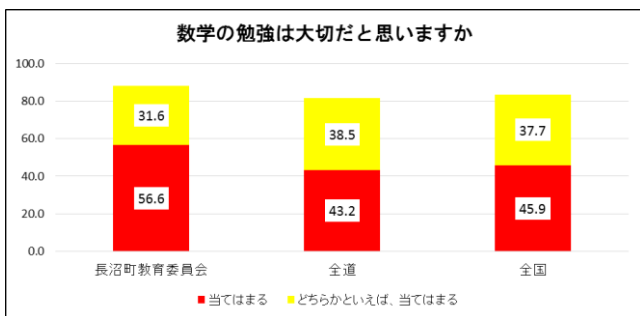
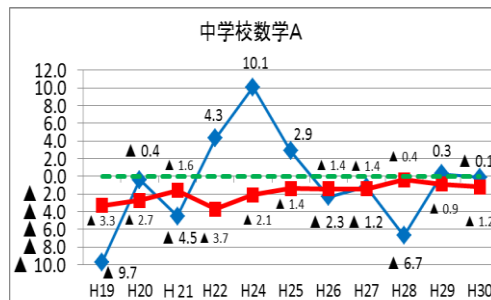
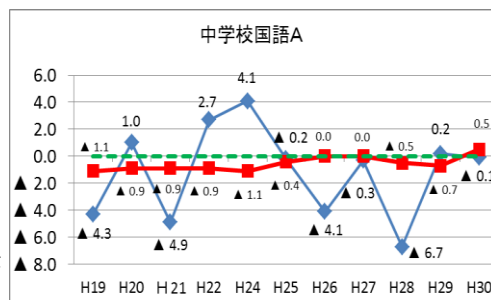
### 理科（知識・活用）～おおむね達成～

- 観察や実験の目的や見通しを明確にし、その結果を元に分析・考察したことを記述する場面を意識的に取り入れた指導を継続する必要がある。

## <中学校 教科全体の状況>



## <平均正答率の全国との差の推移>



### 国語A（知識）～おおむね達成～

- ・文脈に即した漢字の読み書きや語句の使用については、ある程度定着している。
- ・説明的な文章を学習する際には、構成や展開などに留意して文章全体を読み、文章と図表などを関連させながら内容を的確に捉えられるように指導する必要がある。

### 国語B（活用）～達成～

- ・話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問したり、相手の反応を踏まえて話したりするなど、「話す・聞く」力が定着しつつある。
- ・記述式設問の正答率がやや低く、無回答率がやや高くなっている。根拠を明確にして自分の考えを書くことができるようにする指導の継続が必要である。

### 数学A（知識）～おおむね達成～

- ・「資料の活用」領域にやや課題がある。データに基づいて問題を解決する際には、グラフや平均値などを用いて資料の傾向を捉え、説明する活動を取り入れた指導が必要である。

### 数学B（活用）～おおむね達成～

- ・問題解決の方法を数学的に説明することなどに課題がある。問題解決の際には、何をどのように用いたら良いかを確認し、表、式、グラフの使い方について説明する場面を設定するなどの指導が必要である。

### 理科（知識・活用）～おおむね達成～

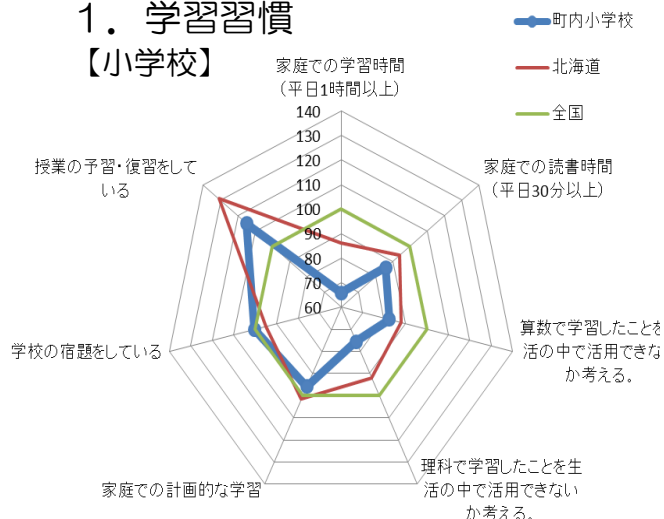
- ・化学的領域、地学的領域にやや課題があるものの、物理的領域、生物的領域の力が比較的定着している。観察・実験の結果を予想や仮説と比較したり、今までに学習した知識や技能と関連づけて考えたりする視点をわかりやすく示して指導する必要がある。

# 児童生徒の学習習慣や生活習慣の傾向 ～児童生徒質問紙調査から～

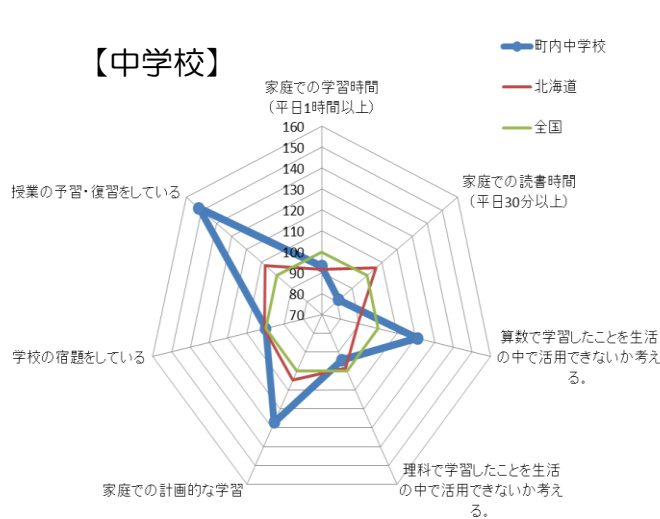
○生活習慣や学習環境などに関する質問を「学習習慣」「生活習慣」「自尊心・規範意識」などの三つの項目におおまかに分類し、本町の傾向を分析しています。（全国の値を100とした指数で示しています）

## 1. 学習習慣

### 【小学校】



### 【中学校】



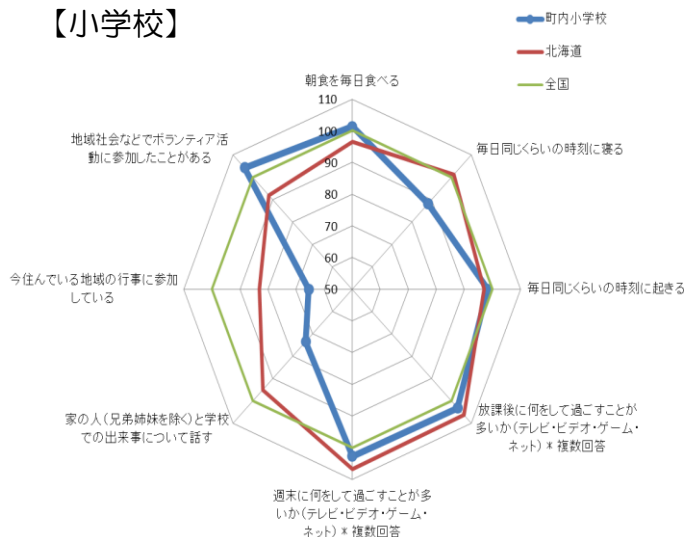
- 平日の家庭での学習時間は、特に小学校で短い傾向にあり、ここ数年同様の傾向が見られる。授業の予習・復習をする、学校の宿題をするとの回答は、小学校、中学校ともに全道並みか、全道平均を上回っており、定着してきている。
- 平日の読書時間については、小学校・中学校ともに全道平均を下回っている。
- 学習したことを生活の中に活かそうとする意識は、中学校で高い傾向にある。

○家庭での学習への質と量の確保のため、実態に合った家庭学習の課題を出すと共に主体的に学習に取り組めるよう、具体的な指導を行う必要がある。

○学校における教育活動の中だけでなく、あらゆる機会を通して、読書の楽しさを知らせ、読書の質を上げていく指導が必要である。学校図書館や町図書館など関係者が相互に連携した取組を進める必要がある。

## 2. 生活習慣

### 【小学校】



### 【中学校】



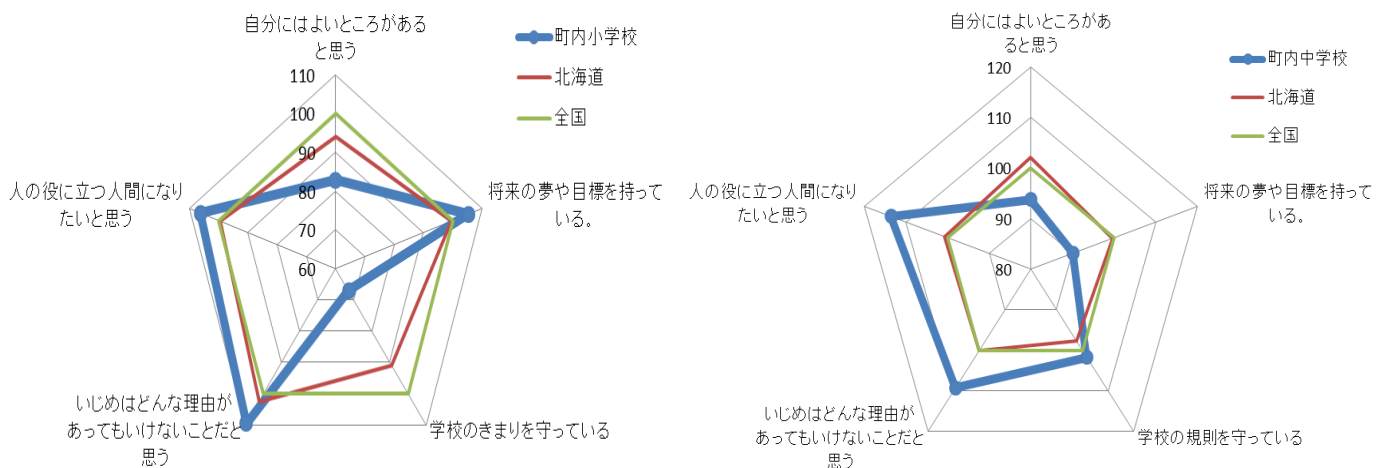
- 朝食を毎日食べている児童生徒は、小学校では約86%あり、全道より高い傾向にあるが、中学校では約74%とやや低い傾向にある。
- 規則正しい起床・就寝については、起床時刻が決まっているとの回答は、小学校・中学校ともに全道と同様かやや高くなっているが、就寝時刻が決まっているとの回答は、小学校が約37%、中学校では約62%と全道・全国より低く、不規則な面が見られる。
- 1日で「テレビ、ビデオ、ゲーム、ネット」などのメディアに触れる時間は、全道と同様かやや長い傾向にある。
- 学校での出来事について家の人に話をすることは、中学校では多いものの、小学校は全道・全国よりかなり低い傾向にある。
- 地域行事へ参加することは、小学校・中学校ともに少ない傾向にあるが、ボランティア活動に参加した経験は、小学校・中学校ともに多い。

- 生活リズムチェックシートなどを活用し、家庭との連携を一層強め、学習習慣や生活習慣の改善・向上を図る必要がある。「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化については、今後も継続していく必要がある。
- 携帯電話やスマートフォンなど、メディアと接触する時間については、所持率の上昇を鑑み、一層のモラル教育の充実を図り、使用のルールをきちんと定めるよう働きかけると共に、親子での対話の時間を大切にすることも心掛ける必要がある。

### 3. 規範意識・自尊意識について

【小学校】

【中学校】



- 「自分にはよいところがある」については、小学校で約34%・中学校で約32%の回答であり、自分の良さについての自己評価が低い傾向にある。
- 「将来の夢や目標を持っている」については、小学校ではやや高い傾向にあるものの、中学校では、全道・全国より低い。
- 「学校のきまり（規則）を守っている」については、中学校では約65%が守っていると回答しており、全道・全国と比較して意識やや高いが、小学校では約29%と低い。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」については、小学校・中学校ともに約90%がそう思うと回答している。
- 「人の役に立つ人間になりたい」という意識は、小学校・中学校ともに全道・全国と比較して高い傾向にある。

- 児童生徒の努力を認め、励ます指導を心掛けると共に、道徳の時間を中心とした心の成長を促す教育（自尊感情を高める、他者を思いやる、成就感を高める、規範意識の醸成など）の一層の指導の充実が必要である。
- 将来の夢を持たせるキャリア教育など、自分の可能性を伸ばす指導の一層の充実が必要である。

## 長沼町の児童生徒の学習と生活の充実のために

◎ 学校では、それぞれの学校の実態に応じた学力向上のための「学校改善プラン」を作成し、具体的な数値目標を設定した上で、その改善に向けて計画的に取り組んでいます。

- 1 基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と思考力・判断力・表現力を高める指導に努めます。
  - (1) 学習の指導方法や授業の工夫改善に努めるなど、研修に努めます。
  - (2) 学校全体で統一感のある、学習規律や教室環境づくりを徹底します。
  - (3) 放課後や長期休業中の学習のサポート、チャレンジテストの活用、宿題や家庭学習など、学びの意欲を高める取り組みを支援します。
- 2 子供の自尊感情を育てる取り組みを推進します。
  - (1) 一人一人の子供に寄り添った「わかる」授業づくりを継続します。
  - (2) 道徳の授業を充実させ、学校行事等の教育活動全般で、児童生徒に自信を持たせたり、成就感を持たせたり、自分の良さに気付かせたりする活動を意図的に計画し取り組みます。
- 3 子供の体力向上の取り組みを推進します。
  - (1) 新体力テストに学校全体で取り組み、継続的な指導を行います。
  - (2) 各校で特色のある体力向上策「1校1実践」を推進します。

◎家庭・地域では、学校、PTAと連携・協力して、子供の生活習慣を見直し、家庭学習や読書習慣の定着に向けた取り組みをお願いします。

- 1 「早寝・早起き・朝ごはん」による生活リズムの確立に努めましょう。
- 2 確かな学力を育むため、宿題や家庭学習（予習・復習）の時間の確保など、学校と協力して学習習慣を改善しましょう。
- 3 テレビ・ビデオ、ゲーム、携帯電話・スマートフォンなどについて、家庭でのルールづくりをし、利用のさせ方に留意しましょう。
- 4 家庭での手伝いや勤労体験を通し、家族の一員としての自覚を育みましょう。
- 5 地域の大人が子供に関わり、子供たちの地域や社会への関心を高め、地域ぐるみで子育てを推進しましょう。

◎教育委員会では、学校と連携して、子供たちの確かな学力の定着に向けた取り組みを進めていきます。

町学習支援員や非常勤講師の配置を生かしたきめ細やかな少人数指導体制の充実、ICT 関連教育機器の充実、小小・小中連携事業の取り組みなど、教育環境と指導の在り方を充実させます。また、放課後や長期休業中の学習サポートや子供の安全見守りなどの学校支援活動をはじめ、放課後子供教室や土曜学習の実施などによる家庭教育への支援を通して、地域教育活動を活性化するための取り組みを推進し、一人一人の子供たちが学びやすい環境づくりを進めます。